

【2】見守りネットワークの構築

話し合いがつくる「みんなで見守るみんなの地域」

(若狭町)

基礎情報

実施地域 若狭町内
 実施主体 各地区地域支え合い検討会議
 所在地 若狭町市場20-18 福祉課内
 代表者 福祉課長 蓮本直樹



活動を始めたきっかけ

若狭町では、全国平均より20年早い高齢化社会を迎えており、また20年後には4人に1人が後期高齢者なることが想定されていることから、超高齢化に備える集落・自治会内での見守り体制の充実が必要と考えられた。
 また22年度の夏の猛暑で、一人暮らし老人や日中独居の高齢者が多数救急搬送されたり、亡くなったことから、民生児童委員による訪問活動の強化を依頼した。
 しかしながら民生児童委員だけでは、対応しきれず、福祉委員や老人家庭相談員など福祉関係者の連携、隣近所の関わり合いの見直しや見守り合い、集落・自治会での支え合いなど福祉関係者からの意見が多数寄せられた。

見守り活動の担い手

- 民生児童委員、福祉委員、老人家庭相談員など福祉関係者
- 隣近所の元気な高齢者
- 集落・自治会役員、自衛消防団 など

見守り対象者

- 一人暮らし
- 高齢者世帯
- 日中独居
- 障害者世帯 など

活動概要

- 平成23年度
- 民生児童委員・福祉委員・老人家庭相談員・サロン世話人などの連携を目的に小学校区単位で「地区福祉懇談会」を開催。
 - ↓
 - 各地区団体代表者からなる「地域支え合い検討会議」を設立し、地域の課題を検討。
 - ↓
 - 区長・自治会長会に福祉に関する会議の開催依頼。
 - ↓
 - 地域福祉懇談会に高齢者アンケート結果や各委員の持っている情報を基に「気がかりな方」のリストを作成して頂き、台帳として包括支援センターで管理。そのデータをもとに自治会長・役員、自衛消防団長、老人会長など団体長と今後の自治会活動の中で福祉に関する事業の充実の必要性を考える会議を開催。
- 平成24年度
- 集落・自治会による福祉に関する会議と地域福祉懇談会での意見として、緊急時の要支援者への対応時に親族の連絡先がわかるよう「救急キット」の整備が必要との意見が多数出たため、7地区で救急キットの配布・整備に取り組むことになった。
 - 「気がかりな方」のリスト(台帳)をもとに、町の防災訓練の際に高齢者の避難方法や要支援者の安否確認訓練を実施。

見守りが必要な人の把握方法

- 民生児童委員・福祉委員・老人家庭相談員・サロン世話人などによる地域福祉懇談会が「気がかりな方」リストを作成。
- 集落・自治会長や役員会、団体長と「気がかりな方」リストの情報共有。
- 気がかりな方(要支援者)の台帳についてはシステムを整備し管理。

活動の成果・異変発見事例

要支援者が救急搬送される際、救急キットにより親族の連絡先が判明した。⇒2件
※以前は救急病院から役場に、「民生児童委員など緊急連絡先を知っている可能性のある方を紹介してもらえないか」など問い合わせが多かった。

工夫した点

「気がかりな方」リストの作成時、福祉懇談会のそれぞれの委員の活動内容を理解してもらい、町の高齢化について全体の状況と各小学校区ごとの状況、自治会の状況を説明し、問題意識をもってもらった。
その上で福祉関係者に話し合ってもらい、集落・自治会長や役員会、団体長との会議を開催してもらおうよう段階を踏んだ。

事業の財源

- H23地域支え合い体制づくり事業
地域支え合い体制検討会議・調整会議事業
3,344,807円
- H24若狭町地域支え合い体制づくり事業
200,000円

課題

- 少子高齢化問題は、身近な問題であることの周知
- 介護保険制度導入により認知症の方が在宅で過ごすことか増え、近隣への迷惑行為の多発
- 都会に出ている子どもさんなどの理解不足と見守る側の閉塞感

今後の目標

- 自治会役員・福祉関係者との連携の強化
- 隣近所同士での見守り体制の確立と強化
- 各地区で取組んでいる優良事例を周知し取組みを支援
- 都会に出ている親族の理解と協力



問合せ先： 若狭町福祉課

(TEL : 0770-62-2703 FAX : 0770-62-1049)